

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101489		
法人名	社会福祉法人啓正会		
事業所名	グループホームモン・サン井手園1		
所在地	長崎県西彼杵郡時津町元村郷897		
自己評価作成日	令和7年10月10日	外部評価結果確定日	令和8年3月11日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「楽しく！優しく！元気良く！」を事業所理念に掲げ、楽しみのある生活を送る事ができるように努めています。感染症対策での制限も極力解除しながら、ご家族と過ごせる時間も大切に考えています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JkyvosvCd=4271101489-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JkyvosvCd=4271101489-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和8年2月4日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療機関が母体とのことで、緊急時も含めて対応をしている。看取りは事業所では行っていないが、母体の医療機関が最期を看取することもできるため、家族からはグループホームで生活が難しくなった場合、次を自分達で探さなくていいことが安心をするとの声が挙がっている。  
浴槽は機械浴があるユニットもあるが、それ以外は家庭用の浴槽である。家庭用の浴槽に入りづらい利用者は、シャワー浴のみの方もおり、普段はシャワー浴でも、湯舟に入ることができるよう、毎週日曜日は同じ建物のデイサービスのリフト浴を借りて、入浴をしている。  
食事は3食とも職員が手作りをしており、リビングには食事のにおいが広がり、利用者の食欲にも繋がっている。食を大切にされた支援が実践されており、家庭的な食環境の維持に努めている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	外部の方にも分かりやすい言葉で事業所理念を掲げ、年に1度研修会を開催し、法人の年間スローガンも共有している。今年度は「やるぞ！やるぞ！やるぞ！」を掲げている。	法人の理念、法人のスローガン、法人内のグループホーム共通の理念が掲げられている。正社員は理事長と面談をする機会があり、理事長の想いを直接聞く機会となっている。	法人の理念やスローガンについては、月1回の全体会議の場で周知を図っているが、全体会議は各フロアから1名のみ参加となっているため、全職員への周知には至っていない状況である。今後は管理職が率先して理念を意識しながら業務に取り組み、日常の中で職員へ伝えていくことにより、理念の浸透を図っていきたいとの意向が示されているため、その取り組みの実施が期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域老人会などの会合にも職員・ご入居者で参加し、繋がりを持つように努めている。	時津町内の複数個所で開催されている地域の高齢者が集まる地域サロンに、利用者と職員で参加し、地域の方と顔馴染みになる機会ともなっている。また、母体の医療機関も関わりがある小学校へ、主任が認知症の講話に行ったこともあり、小学校への活動は今後も続けていきたい意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方へホームを知って頂くように運営推進会議をはじめ、地域連携会議などでの行政や他事業所との連携にも努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見・要望を参考に、よりよいサービスの提供に努めている。ご家族の悩みを共有できる場としても活用できるよう努めている。	対面での会議を開催しており、自治会長から行事の案内がある等、情報交換をする場となっている。家族向けの勉強会も運営推進会議の中で実施するようになり、少しずつ家族の参加も増えてきている。今後も家族へ会議への出席について声をかけていきたいとのことである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場や包括支援センターとは日頃から連絡・相談を行っている。地域連携会議などの事例検討会参加を経て、関係作りに努めている。	時津町役場とは、運営推進会議に職員が出席するほか、日頃から情報共有や相談を行うなど、継続的に連携を図っている。家族が時津町に居住しており、遠方に住む家族の入居について相談があった場合には、時津町役場へつなぎ、必要な助言や支援が得られるよう対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内の身体拘束虐待防止委員会による全体会議内（毎月）で啓発活動及び勉強会を通じて、防止に取り組んでいる。法人内での研修会も実施されている。	身体拘束委員会と勉強会で身体拘束について学ぶ機会がある。本や事例を通して、職員がどうすべきかを考えている。	身体拘束委員会と勉強会で、身体拘束についての周知をしているが、全職員が参加できている状況には至っていない。今後は、より多くの職員が参加できる体制を整え、身体拘束に対する理解と意識の向上を図っていくことが期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内の身体拘束虐待防止委員会による勉強会が年に2度計画されている。併せて法人内研修会や外部研修へも参加し、虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域会議での研修会参加など。必要な際は、サービスに繋がられるよう準備はしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・運営規定・重要事項説明書を用いた説明に併せて、写真の取り扱いや緊急時の希望なども確認するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に意見や苦情受付窓口等の案内をしている。なるべく要望を言い出しやすい雰囲気作りにも努めている。	希望する家族とは、SNSを活用して事業所とつながり、日常的な連絡や情報共有を行っている。また、必要に応じて電話連絡も行い、家族が要望や意見を伝えやすいよう配慮している。利用者からは、「家に帰りたい」「買い物に行きたい」といった思いが聞かれている一方、家族からは、現状の生活を継続してほしいとの意見が聞かれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議など職員が意見・提案する場面は常にある。理事長や管理者との面談も年に3回あり。個人の年間目標や能力開発を支援している。	正社員は理事長と1対1で面談をする機会があり、パートの職員は、管理者と主任が正社員の面談時期に合わせて、面談をしている。職員から以前、駐車場で花火大会をしたいとの要望が挙がった時には、法人内で理事長決裁が必要な費用がかかるため、管理者から理事長へ提案をしたことがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望休みを受け入れ、仕事とプライベートの充実に努めている。また、能力開発面談を年間を通じて行っており、職員が明確な目標を持って働ける環境作りにも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修会を開催し、ケアの知識を高めたり、外部研修や介護福祉士取得に向けた実務者研修の受講も能力開発面談にて勧められている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設間で研修を行うなど、情報交換等を行う機会を設けている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談にて、本人及び家族が抱える不安や要望を聞き取り、入居日から安心して過ごして頂けるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談からご家族の悩み、不安、希望をお聞きし、入居日にはケアプランの説明を行うよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談から入居までの期間に連絡をとり、ご本人とご家族が望むサービスの提供を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者ご本人がどのようなケアが必要なのかを考え、可能な限り、自立した生活を送って頂けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所での行事の参加や外出・外泊・面会等により、ご本人・ご家族の関係を大切にしながら継続していただくよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の訪問や希望される際には連絡できるよう支援に努めている。	家族や以前職場が一緒だった仲間や、近所の方が訪ねてくることがある。以前勤めていたお店に、職員が付き添って店番に立っていた利用者もいた。ドライブに行くと昔話をして話が弾むことがあり、できるだけ関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が関りが持てるように職員が間に入りながら孤立しないよう関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からの相談やご意見は快く応じ、対応するよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の今までの暮らしなどをお聞きし、その意向に沿って生活が出来るよう努めています。またモニタリング時に本人の思いなどを検討するよう努めている。	入居時は利用者本人も家族も不安を抱えていることが多く、部屋にこもりがちの方が多いが、本人のペースに合わせて、孤立しないよう配慮しつつ、慣れてもらうよう働きかけている。入居時に限らず、入居してからも機会があれば面会時などに家族からの話を聞いたり、家族の利用者への接し方にヒントをもらうことで、利用者の思いや気持ちを大切にしながら支援をするように心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人に生活歴や生活環境・介護サービス利用状況等の情報をいただきフェイスシートの作成を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃から入居者本人の過ごし方や状況を記録し、職員間での情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の記録やケア会議を基にモニタリング、アセスメントを定期的に行い、介護計画作成の際には、職員・計画作成担当者・ケアマネージャーが話し合いプランの作成している。	3か月ごとに計画作成担当者がモニタリングを行い、家族や本人の意向をお尋ねして、半年ごとに見直しを行っている。また、日頃から法人内の様々な職種から必要に応じてアドバイスをもらっており、それを計画作成の参考にしている。更新の際はケアカンファレンスにおいて、職員で課題を挙げて意見交換をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には、一人ひとりの日々の状況やケアプランに沿ったケア提供時の反応様子が記入されており、職員間で情報共有し、ケアプランの見直しにも活かされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況などに応じて、病院受診の付き添いや外出時の見守り、気分転換の散歩やドライブ等その時々気持ちに応えることが出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や外出等、職員や家族に協力してもらいながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の希望を訊ねるようにしている。系列病院へかかりつけ医を移している方が大半だが、希望の病院へご家族対応で受診されている方もいらっしゃる。	入居時の説明でほとんどの利用者が母体となる医療機関にかかりつけ医を変更されている。ユニットごとに担当の医師は異なっており、それぞれ月2回訪問診療に来ている。緊急時は母体医療機関へ連絡し、指示を仰ぐことになっている。訪問歯科は治療や検診など必要に応じて、訪問日程を調整して来てもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内の看護師や訪問看護師に些細な事でも相談し、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は電話でのやり取りの他、入院連絡表に細かく記入して、情報交換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化については、ご家族との情報交換を密に行うよう努めている。かかりつけ医との状態説明も交えて、どのように支援していくかを検討している。	基本的に事業所での看取りは行っておらず、できるだけ長くグループホームで過ごしてもらいたいと考えているが、食事がとれなくなったり、医療での対応が必要となった時は家族と相談して、法人の中の対応可能な施設に移ることになり、母体医療機関へ入院される方が多い。利用者もその家族も、グループホームで過ごすことができなくなったとき、次の行き先がなくなることによる不安を感じる方が多いようであるが、母体となる医療機関の存在は大きな安心材料となっている。法人として、ACP(人生の最終段階の医療・ケアについて、本人が家族や医療・ケアチームと事前に繰り返し話し合うプロセス)を進めていることである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法の勉強会などを実施し、緊急時に対応できるように取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	防災委員会の活動を基に資料配布や、訓練の実施に努めている。運営推進会議を通して、地域の災害時一時避難場所としての提供なども検討している。	防災担当者を中心として、月1回点検表に沿って、排煙窓の作動、消火器が定位置にあるか、非常灯が正常に点灯するか、キッチン近くに燃えやすいものがないかなど、ユニットごとに確認している。備蓄は事業所内に保管しており、内容や賞味期限等については法人内の管理栄養士が管理している。また、緊急時の対応として、搬送訓練、水消火器による消火訓練、停電時に貯水槽より水をくみ上げる訓練、BCPの確認等様々な状況を想定した準備をしている。	避難訓練等何らかの訓練の実施後、運営推進会議にて報告を行い、記録として会議の報告書に残すことが望ましい。また、プレーカーの前に利用者が食事をするための机が置いてあり、非常時の対応に支障をきたすことも考えられるため、食事の時以外は移動させるなどの対応を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束虐待防止委員会の活動などでも、不適切なケア・言葉かけについて考える機会を設け、尊厳ある対応に心がけている。	不適切な対応の防止について、全体会議を通しての発信を行っている。親しみを込めた言葉づかいや対応であっても、周りからどう見えるかということを考えてもらいたいということを伝えている。認知症である利用者の対応は大変な場面も多々あり、気持ちに余裕がなくなりそうな職員がいたら、他の職員が入るなどお互いにフォローし合いながら不適切な対応がないよう気を付けている。また、後から時間を作って管理者が話をすることもある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の言葉や思いを否定せず、希望や要望をいえる場であるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事など、本人の体調や希望に合わせてるように心がけ、その方のペースに合わせて日々を過ごして頂けるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪を梳いたり、爪を切ったり洋服も一緒に選んだりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の前後などに入居者様にテーブルを拭いてもらったり、好きな食べ物を取り入れたりしている。	法人内の栄養士が作成したメニューに従って、各ユニットで3食とも食事を作っており、食事を作る家庭的な雰囲気を感じながらリビングで過ごすことができる。アレルギーや好き嫌いについては、替わりのものを提供している。できる限り自分で食事をとってもらおうよう、利用者の状況に応じて必要とされる支援をするようにしている。食事は各ユニットの判断で流動的に対応でき、ホットプレートを使って、利用者と一緒におやつにホットケーキを焼いたり、昼食にお好み焼きを焼いたりして、楽しむこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した献立で、状態に応じた量を調整したり、形態を変えたりと支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の手入れや歯磨き、口腔スポンジの使用やうがいの介助など行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を見ながらトイレへ誘導したり、ソワソワしている時に言葉かけを行ったり、個々の排泄パターンを全職員で共有するように努めている。	排泄は、現状を維持できるよう支援をしており、退院後にオムツ使用となった利用者には歩いたりトイレに座ってもらうようにすることで、元の状態に戻るよう努力している。また、足腰の筋力を維持することで、排泄の自立支援へ繋がると考え、月に1~2回法人のスポーツジムのトレーナーが希望者へ体操を教えている。排泄のタイミングもチェック表にて管理しており、問題があれば主治医に相談するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に気配りし、野菜や果物等を食べていただくよう工夫し、体操等に取り組める環境作りに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の体調に注意しながら希望に添った入浴介助を行っている。決まった曜日に入浴できない方に別日に入浴していただくよう努めている。	週に2~3回入浴してもらっているが、入浴を拒否された場合は、順番を後回しにして再度声掛けをしたり、どうして入りたくないのか話をして気持ちに寄り添った支援をするようにしている。各フロアには家庭用のお風呂が設置してあり(1つのフロアのみ移乗しやすい機械浴)、浴槽に入ることが難しい利用者は平日はシャワー浴で対応しているが、同じ建物内のデイサービスが休みである日曜日にリフト浴の設備を借りて、浴槽に入ってもらえるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のペースに合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に目を通して、食前・食後の確認および服薬マニュアルに沿った服薬介助に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやゴミ出しの手伝い、テーブル拭きの手伝い、レクリエーションの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	職員と一緒に車で出かけたり、ご家族の協力を得て出かけている。	できるだけ外に出る機会を作りたいと考えており、法人のバスや車いす対応の車両を使って外出をしている。お弁当を持ってピクニックに出かける際、家族にも案内をすることもあり、一緒に楽しんでもらえるよう工夫している。また、車での外出に限らず、様子を見ながら、外の空気に触れられるよう駐車場を職員と散歩することもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失の問題などもあり、手元に現金を所有したい方は、上限を3000円と設定させてもらっている。事業所内の自動販売機や買い物などに行く際は、お金を使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年末には、入居者様に1枚ずつ顔写真入りの年賀状をお渡しし、できるだけ自筆で新年の挨拶を書いたものを送るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を行い、清潔にしている。季節に合わせた飾り付けを行ったり、就寝時の照明も各自にあわせて行っている。	季節に応じた飾り付けを得意な職員が行っている。七夕飾りやクリスマスツリーなどはできる範囲で利用者と一緒に飾り付けをすることもある。清掃は毎日行っており、モップがけ、アルコール消毒をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールではソファで過ごされる方、テーブルで過ごされる方など、思い思いに過ごされている。居室で一人テレビなど見て過ごす方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から家具や使い慣れた物を持参し生活されている。	各居室には、利用者の状況に合わせて名前を掲示しており、見やすい位置、気をひくようなイラストなどそれぞれの利用者に合わせた目印を使用している。使い慣れたもの、なじみ深いものを持ってきてもらうようお願いしており、ロッキングチェア、仏壇、冷蔵庫を持って来たり、好きな絵を飾っている利用者もいる。各居室は毎日朝から清掃をしているが、自立している利用者のごみを拾ったり、フローリングワイパーを使って掃除をしたりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	法人内の理学療法士などの意見も参考にし、生活環境の見直しなども取り組んでいる。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4271101489		
法人名	社会福祉法人 啓正会		
事業所名	グループホームモン・サン井手園Ⅱ		
所在地	長崎県西彼杵郡時津町元村郷897		
自己評価作成日	令和7年10月10日	外部評価結果確定日	令和8年3月11日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

新型コロナの感染対策やご入居者の高齢化による身体能力低下などにより、複数名を対象にしたレクリエーションが難しい状況がありますが、可能な範囲でドライブへお連れしたり、暑い時期など、屋外での活動が困難な際は、フロア内でプロジェクター・スクリーンを使用して、映画上映会を行うなど取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JgyvsvoCd=4271101489-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JgyvsvoCd=4271101489-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和8年2月4日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念について、年に1回法人内決起集会の中で今年度のスローガンと共に話されているが、決起集会へ参加できない職員に対しての周知が不十分である。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりを大事に出来るように、高齢者サロンや清掃活動に事業所の役職者は参加しているが、フロアスタッフは参加できていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所について、より多くの方に知って頂けるように、役場や包括支援センターと連携したり、ご入居者と一緒にサロン活動へ参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所内での勉強会を会議内で行う事で、ご家族や自治会長へも認知症ケアへの関心を高めてもらうよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括ケア会議を通して、情報交換を行い、協力関係を築くよう努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を通して、正しい理解と共に関心を高めるよう毎月の全体会議内にて啓発活動に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会や事業所内の委員会による勉強会を通して、虐待に関して理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の勉強会を通じて、成年後見制度について学ぶ機会はあるが、フロアスタッフとしては活用までの支援は出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所について、より具体的に理解を得られるように、事業所の見学に来て頂き、その上で様々な相談を受けられるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より、意見や要望について、計画書の更新などの際に聞き取り行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より、職員の勤務に関する相談や精神的な問題について、傾聴され、解決できるように努められている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、忘年会やぼうーリング大会などの開催について、企画・実施されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的にケアに関する勉強会や研修会が開かれ、管理者や職員の能力向上に努められている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他施設ケアマネージャーと定期的集まって会議を行ったり、不定期ではあるが、リモート等で他施設と事例発表や勉強会を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームに入居されてから、これまで出来ていた事が出来なくなる不安を感じられるご入居者も多くいらっしゃるため、少しでも不安を解消できるように言葉をかけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人がホーム生活に馴染んでいるかについて、お話を傾聴し、少しでも安心頂けるように言葉をかけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームの生活に少しずつ慣れていく為に、ご本人と少しずつ打ち解けられるように言葉をかけたり、困りごと、不安なことがある場合は耳を傾けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者の言葉や行動から学びを得られる事も多い。その為、入居者様もまた、我々を支えてくれている存在だと捉えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とのやり取りから、入居者ご本人のこれからの生活を支える為に必要な助言をいただく事も多々ある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様によっては、家族以外のご友人や職員の方々から面会やお電話をいただく事もあり、関係性を大事に出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様どうしが関わりを持ち、友好関係が築けるように交流の機会を作る一方で、トラブル防止にも努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	音楽の教職員の経験がある家族様にピアノ演奏会にお越しいただいたことがあり、様々な家族様の家族との関係を大事にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人だけでなく、家族とも相談を行いながら、希望や意向を確認し、出来る限りそれに添った支援ができるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報提供書等を通して、ご本人やご家族のお話も合わせながら、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室で一人で過ごす事を好む入居者様が多いが活動して過ごして頂けるように、ホールへ顔を出して頂くよう言葉をかけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画更新の都度、ご本人とご家族に生活に対する意向を確認し、スタッフと共にこれまでのケアの振り返り、新たな生活課題の分析に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画書のサービス提供や目標の期間に合わせて、中間に振り返りを行ったり、著しい状態変化が見られた場合は、見直しの為、カンファレンスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご夫婦での入居受け入れも行っており、入居されるフロアは異なるものの、ご夫婦やご家族の希望により、毎日定時に面会する事が出来るように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	数名の入居者様をなづみのカフェやほっとハウス等の地域行事に参加し、外部や地域の人々との交流を楽しむ事が出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の状態、希望に応じて、家族様と相談させていただきながら専門医の受診ができるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々、特別な処置が必要な入居者様の患部の状態について適切に把握が出来るように連携しながら対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホームでの入居者様の生活状況、薬情、ADLの変化等も含め、具体的に適宜、医療機関への情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	食事の摂取状況、臥床時間の長さ等を含め、状態観察を行い、ホームでの生活が極めて困難となる際は、スタッフから管理者へ相談を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの使用に関する勉強会を以前行った事はあるが、定期的な訓練は実施できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防隊立ち合いのもと、あるいは自主訓練で、昼夜を想定した防災訓練や、防災委員会による勉強会を実施している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トラブルが発生しないよう、ご本人のお気持ちを傷つけないよう、お気持ちに配慮した言葉かけを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り、ご本人の思いを言葉にして、引き出すことが出来るように、日々傾聴と自己決定を促す言葉かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に添うと、居室で過ごす入居者様も少なくない。その為、出来るように、日々傾聴と自己決定を促す言葉かけを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様によっては、入浴後の衣類を指定され、着用解除を求められる為、お気持ちに添って対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様のADLの関係から、現状一緒に準備や片付けが難しい状況となっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様によっては、水分をあまり摂取されない方もいらっしゃる為、脱水症状予防の為、出来る限り摂取いただくようサポートを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きが十分に出来ていない入居者様が多くいらっしゃる為、自力で行っていただいた後は、スタッフがそれぞれ介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレで排泄出来るように支援し、夜間はベッド上でおむつ交換など、ご本人の状態に応じて使い分けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為に、わずかではあるが、運動が出来るように可能な範囲で支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様それぞれの状態や、介助を行う職員の状態も関係し、個々にそった支援は難しい状況にある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠出来るように、日中に運動やレクリエーションを通して、活動量を増やせるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日頃の入居者様の状態観察をもとに、医師や看護師、薬剤師に報告・相談を行っている。下剤などは本人の不調訴えなども参考にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	時々ではあるが、フロアが異なる入居者様方をお連れし、買い物やドライブ等の外出支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日のきぼうに添って支援は困難だが、季節に応じて開花している花等を見れるようにピクニックやドライブ等へ支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持に関しては、紛失防止、及びトラブル防止の観点から、事業所がご本人に許可を頂いた上で預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話を使用して、家族様とやり取りをして頂いたり、携帯電話を所持されている入居者様もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて、スタッフが季節感を感じられるような、暖かみのあるオブジェ等を使用して、飾り付けを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	あまり多くのものを共有空間には設置しないように努め、入居者様が出来る限り、自由に動く事が出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのある物を持ち込み頂き、ホームでの生活でもこれまでの生活や家族様とのつながりが感じられるように支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の自立を促せるように出来る事は行って頂くが、その日の状態等に応じて、困難な事はスタッフが介助している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4271101489		
法人名	社会福祉法人啓正会		
事業所名	グループホームモン・サン井手園IV		
所在地	長崎県西彼杵郡時津町元村郷897		
自己評価作成日	令和7年10月10日	外部評価結果確定日	令和8年3月11日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

○ホーム生活の毎日が充実して送れるように、健康面や食事楽しみごとなど(その人らしい生活が送れるよう)配慮している。  
○地域と共に繋がりが続けられるように地域活動に積極的に取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JgyvsvoCd=4271101489-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JgyvsvoCd=4271101489-00&ServiceCd=320&Type=search)

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和8年2月4日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「優しく・楽しく・元気よく」という外部からでもわかりやすい言葉の事業所理念を掲げ、毎日の業務に活かしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者と地域のつながりとして、地域の行事に参加したり、地域文化祭への作品の出演など交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて日々の取り組みをお話ししたり、ご意見などを活かすよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での報告を基に、ご意見に対する検討や話し合いを行い、改善や実現ができるよう努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場や地域包括センターとは連絡や相談を行っている。包括支援センターからも認知症サポーターの見学依頼などを受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の会議にて、身体拘束について理解・不適切ケアの認識を深めている。年2回各委員会にて勉強会を実施して、話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的研修会を行い、意見交換によって虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての勉強会・会議を行い、その知識をもとに活かせるよう努めます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規入居の際は、本人様やご家族様に不安や疑問点を聴き、十分に説明し了解を得ています。その他の時でもいつでも相談に応じています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望を気兼ねなく話してもらい関係職員へ報告し、話し合いの場を設け、ホーム運営に反映できるよう努めています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案は迅速に対応し取り入れるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に3回の理事長との面談を実施し、年間目標の経過などを報告している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を定期的に行い、ケアへの知識を高める為に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設間研修や全体の盛り上げよう会に参加し、一緒に勉強したり情報交換をするなどしてサービスの向上に繋がるように取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションをとり、話しやすい環境づくりに努め、要望などあれば取り入れる事で、安心していただけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人同様に詳しく話を聞くことで、何を要求されているのかを把握し、情報の収集などに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族から情報をいただくことで、入所される方に合ったサービスを受けていただけるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な考えではなく、共に暮らし生活している家族のような関係を大事にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設に預けているだけという関係にならない様に、ホームでの行事などにも参加していただけるような連絡、言葉かけをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や友人、知人の訪問などご希望される際には連絡を取るなど努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように食事以外の時間も皆様と楽しく会話等交流が出来るような機会を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了されても、気軽に相談などしていただけるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの今までの暮らしや好みをお聴きし、ご本人の意向に添えるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりその方に合ったサービスを検討し、サービス提供に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックを行い、心身状態などの情報交換を行い、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の要望を取り入れながら、職員間で話し合い、現状に合った介護計画の作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人の日々の様子などを個人記録に入力し、職員間で介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて、病院受診の付き添いなどサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加。また町文化祭に向けての作品制作など日々の活力になり楽しく暮らせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な訪問診察・外来受診。または体調の変化があれば24時間いつでも適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が毎日の健康状態に気を配り、体調の変化があれば看護職に報告・相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期治療・退院が出来るよう医療機関に相談、協力しながら、ご家族にも説明して安心していただけるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は医療機関からの説明も含めて情報共有し、支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて定期的な勉強会やマニュアル等で対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	昼夜想定での避難訓練の他に内部研修での災害に対する対応を学んだり、意識を高めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬う気持ち、明るく丁寧に接するようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、ご利用者が要望を出せるよう環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の希望に添うよう、その方のペースで日々暮らせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の好みに合わせ、その方らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の希望を取り入れたり、その方に合わせた食事形態にて提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分補給の記録をとり、栄養バランスや水分量が確保できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご自分で出来る方は言葉かけして、出来ない方は介助にて口腔ケアでの口腔内の清潔を保てるようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	言葉かけや誘導にて習慣づけを心がけ、排せつの失敗を防いでいる。おむつ使用を減らし、自立に向けた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の運動や体操、水分補給など便秘の予防に働きかけたり、改善が見られない方は、医師へ報告し、薬での改善を検討するなど個々に応じた検討をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調を観察し、お一人お一人が入浴を楽しめるよう時間やタイミングを図って、要望に応じている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に眠れない事が無いよう、日中は昼寝などのし過ぎに注意して、昼間の余暇活動に取り組み、身体を活発に動かせるよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効用を把握し、体調の変化に合わせて医師と相談して服薬の支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人の能力を最大限に引き出し、楽しみ毎の提供や日々のホーム生活が充実するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お一人お一人の希望に応じられるように付き添ったり、ご家族に協力して頂いたりと支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される方は手元にお金を所持して、自動販売機でジュースを買うなどしている。紛失の危険なども踏まえて、手元には上限3000円という取り決めをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族との関係が途切れないようLINEアプリでのやり取りなど支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間であるホールは四季を感じていただける飾りや貼物、造花などをして明るく居心地が良く過ごせる工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時は居室で過ごして頂き、レクリエーションやテレビ視聴など楽しく過ごせるホールがあり、好きなように過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅より使い慣れたものをご持参して頂くことで違和感がない毎日を過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室や廊下には手すりを設け、各居室にはトイレを設置している。床は段差を無くし、行動しやすい個室になっている。		